

## 新刊紹介

### ○地球の起原と歴史

青山信雄著、東京市神田區今川小路一丁目一番地大鑑閣發行、ポプリン裝訂術版四〇三頁、コロタイプ寫真銅版其他圖版八十挿入、定價金壹圓五拾錢、大正十四年十二月發行。

從來地球の起原は多く地球物理學者によりて記述せられ、地球の歴史は地質學者によりて取扱はれ、兩者の統一連絡の上に遺憾の點が尠く無かつたが、本書は此の兩者を綜合した著作であつて、先づ以て此點に於て從來の缺陷を補ふたものと謂はればならぬ、地球の起原を説くに、先づ筆を星辰界に起して、カント及ラプラーズの星雲説から、グーヴィンの潮汐進化説、流星説、微惑星説、小惑星説と順を追ひ、是等の諸説の長短を批判し、次に微惑星説に依る地球の發展の階程を述べて地史に入り各地質時代の氣候、動植物、岩石の地理的分布や其變遷發達の模様を頗る纏りよく簡明に叙記し、更に人類の歴史と氷河氣候の原因とを記載して、最後に太陽系創成に關する新説と、最近學界に八釜歌いウエゲネルの大陸移動説とを紹介して筆を結んだ誠、氣の利いた良參考書である、地質時代の區分や、大陸海盆の永存を主張するあたりなど、概して亞米利加學風の色彩が濃厚の様である、地史中本邦の片麻岩系や結晶片岩系に關する記事が餘りに簡單で一才アツク無いやうな感があり、本邦古生層に就ての記述も誠にアツサリと片附け、滿洲や朝鮮の地質に關し

新刊紹介

ては、一向言及せられて居ない様であるのは、其餘地が無かつた爲めであらうか、生物の起原に關しても諸學説が引用せられてあるが、問題が問題であるセイか、何と無く物足り無い様な氣がする、けれども一體の記事は頗る明確で、六ヶ敷事項も誠に了解し易く述べられ、誤植に至て稀で、圖版は鮮明に、科學的興趣の津々として盡さざる良著で、切に地學愛好者の一讀を奨める。(石川)

### ○地理教材研究

#### 第七輯

東京目黒書店、大正十五年一月十五日、定價貳圓

大正十一年四月に地理教材が呱呱の聲を擧げてからは、五星霜今年は愈第七輯がでた、目次をとつてこれを通覽すれば、各輯三百頁以上尠大な研究資料の集積を得たことになつた、翻譯物が少くて會員が眞面目につくつた教材研究であるから何となしにじみではあるが確實な感がある、本巻には松江市、樺太アイヌ、靈豫叢島の聚落、帝釋峽、北樺太ツイーエ、京都市產業別子銅山、宮城縣地理資料などいづれも有益な報告であるが世界地體構造の分類、サハラ横斷線、大英帝國博覽會、黃河平原チエツコスロバキヤ、大堡礁など今回は外國の資料を多くしたとは西田與四郎君の告白にある通りで、いづれも興味をひく讀物である、讀者に一讀をすゝめる。(藤田)

### ○都市計劃圖譜

工學士 武居高四郎著、大正十五年一月

二五九頁、東京市神田區通神保町五番地廣陵社發行、定價七圓  
著者武居工學士は、多年歐米に遊び、ハーバード及びリヴァプール兩大學にて、斯學の泰斗プレー及びアーバークロンビー

三卷

六七

ニ兩教授に親炙し、深く都市計畫の原理を専攻し、又當代一流の都市計畫家ノーレン、リユーイス、パーソロミニ、レーモンドアンウイン、セリエエ等諸氏に就いて深き研究を積み、尙歐米諸國著名都市に於ける計畫事業實地を看得せる斯界の新人である。其の積年の研究と實地觀察の結果になれるもの即ち本著である。本著に於いては鮮明なる百十六圖を以て、先づ世界の都市計畫を概観せしめ、次いで (一) 道路及び廣場 (二) 交通機關 (三) 公園 (四) 土地區劃整理 (五) 田園都市及住宅 (六) 地域制 (七) 公共施設等世界の都市計畫に關するあらゆる方面の概念を一目瞭然の中に獲得せしめ、最後に本邦都市計畫の一般的概念を與へんとして居る。其の排列せる材料は甚だ豊富に、而も單に材料の富贍なるを以て能事とせず、排列せる設計考案には一々精確なる圖解と趣旨の説明とを附し、一般讀書子をしても容易に都市計畫の何たるやを理解せしめんと試み、尙其の説明は單なる説明に止めず、隨所に其の得失利害を論じ、之に精到なる批判を加へて、以て斯界に寄與せんとして居る。思ふに人口の都市集中が喜ぶべき現象なりや否やは暫く措き、其の事實を否定する譯には行かぬ。其の傾向が人力を以て如何ともなし難き、時の勢であるならば、吾人は寧ろ多數の人口の集中する都市に於いて、住民の健康、衛生、幸福、便宜、能率増進等其の他諸種の目的に向つて最善の方策を講じなければならぬ。而して其の方策は都會人士各自が相協力し相研究して講じなければならぬ事論を俟たぬ。(都市計畫に關する疑獄などの起るは一般市民に理解が足らぬにもよる。) 此の意味に於いて善良なる

市民は世界の都市計畫に就て一般の概念を得て置く事が必要である。實際各自の都市に就いてそれ〴〵眞面目に考へる必要がある。殊に市民にして地理學に興味を有するもの、假令市民でなくとも苟も地理學を研究せんと思はん程のものば尙更之れに關する一般的知識を得て置かればならぬ。何となれば吾人の取扱ふ地形、地質、水利、氣候等の自然地理的條件並びに人文地理に於いて研究する人々、産業、政治、經濟等は何れも都市計畫と相關する所誠に甚大なるものが存するからである。斯かる見地のみよりするも地理學の徒は勿論、善良眞摯なる市民、殊に地理學に興味を有する一般讀書子に向つて敢て本書の一讀を薦め度いのである。若し其れ坐ながらにして世界著名都市の景觀、設計、施設、郊外風物等を知らんとする點より云へば、本書には多數の美麗鮮明なる寫眞、地圖、平面圖、鳥瞰圖等があり、就中廣島市要部の垂直空中寫眞日本都市の家屋配置を示す絶好の實景である。此等の圖版を巧みに排列して一々之れに解説を加へて居るから、世界都市の大觀を窺はんとするものは是非精讀すべきものであり、又各學校に於ける内外地理教授の參考資料ともなるものであるから、各學校圖書館等に一本を備ふべきものたるを信ずる。(小牧)

○極東民族 第一卷 文學博士 鳥居龍藏著、文化生活研究會、大正十五年一月一日發行、定價九圓五十錢

菊版六一頁の大本で東洋人種學叢書第一編第一卷である、最初に支那歴代の人種民族の記述があつて、皇清職貢圖を紹介し、日本人が徳川時代にアイヌ探査に従事した記録を批判した

る後チニクテ、コリヤーク、アレウト、ニカギール等の古西比利亞族の人類學及土俗學的記述が詳細に記してある、我國の石器時代の風俗に類似したものが今も猶これらの民族の中に残つてゐることが明に理解される。第二卷にはカムチャツカゲール、エスキモー、アイヌ、ギリヤークに關して記される筈である。邦文で尤も詳細な記述に富んだものとして推奨する。しかし一般の讀者に對してはこの書の摘要録のやうなものがよいであらうと思ふ。(藤田)

### ○植物妖異考

白井光太郎著、大正十四年十二月一日發行

岡書院、定價三圓三十錢

本書は植物の風異なもので古來或は祥瑞としてたゞへられ、或は土地の不思議として神秘とされたものや、怪異なものとして木から血がでた、天から木の實がふつた、葉の花に蓮花がさいいた、椿に人の手が生じたなどいふものや、變異な植物として特に巨大な果實や儂少な珍卉の類例や變生植物として山芋が鱧になるといふやうな古來の物語本や雜錄類に出てゐるあらゆる植物の妖異を集めて一々詳解がしてある、引用書目は日本のもののみでなく、支那朝鮮の古記録に及んでゐる、科學の光りの前にあらゆる妖怪變化が消えうせた思ふする。古の地誌類を讀む上に餘程面白い參考になると思ふ、ことに支那の祥瑞の記録研究者にもつてこいの本である。(藤田)

## 雜報

雜報

○南紀湯崎の新噴騰泉 和歌山縣西牟婁郡瀬戸町山竹湯崎に於て、大正十三年旅館有田屋が率先試錐の結果偶然間歇噴騰泉を得、故徳川頼倫侯は、之を不惑間歇溫泉と名づけ、大に其苦心努力を稱揚せられた、爾來同地の溫泉試錐熱は、俄に昂騰し、湯崎文里土地株式會社は、大正十四年五個處に試錐を施行し、其中一個所は、深さ七十尺で故障の爲め中止したが、他の四個處は何れも溫泉を得た、先づ大正十三年から湯の東々南溪流側の水田中に行つた試錐は、十四年六月深さ三百九尺で、五十八度(攝氏)の溫泉を得、字湯の谷に於ける三個の試錐は、何れも百六十尺内外で、五十八度乃至六十度の溫泉を得た、特に稻荷山に於ける試錐は、深さ百七十五尺で溫度七十三度の間歇噴騰泉を得た、約三分間毎に熱湯を高き約二間噴出し頗る壯觀である、一時間の湧出量は約十八石許りである、是に勵まされて會社は浴場、旅館、俱樂部等の設備や、道路の開鑿等に忙殺の狀況である、是に刺戟せられて、溫泉場の附近に試錐を企てる者が續發の模様であるが、是は熱海や別府等の有名な溫泉場に於ける覆轍に鑑み、從來の溫泉保護上相當の警戒取締を斷行する必要がある、兎に角湯崎溫泉は、氣候は暖和であつて風景は申分なく、加之間歇溫泉は呼物となり、彼の城崎溫泉が地震の大打撃を受けた爲め、昨年中浴客は劇増し、年末より年始にかけ、各旅館は何れも満員の盛況を呈した、機敏な大阪商船會社は一五〇噸の汽船を新造して此の航路に充つる事を謀り、湯淺以南紀州海岸鐵道工事も着々進行中であるから、今後數年を出でずして、京、阪、神地方より湯崎への海陸交通は必

三

六九